

静岡県袋井市教育委員会

【総人口】87,894人

【自治体 関連URL】<https://www.city.fukuroi.shizuoka.jp>

【主担当部局】袋井市教育委員会教育企画課
(幼小中一貫教育担当)

【主な関係部局】袋井市教育委員会子ども未来課
(公立幼稚園・保育所・認定こども園担当)
袋井市教育委員会学校教育課
(公立小学校担当)

	幼稚園			保育所		幼保連携型 地域裁量型		小学校		
	国立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	国立	公立	私立
施設数		8	1		13	5	7		12	
園児・ 児童数		253	115		911	621	854		4935	

事業実施地域・
協力園校

【実施地域】

袋井市全地区

【協力園校】

幼：公立幼稚園3園、私立幼稚園1園、私立保育所1園、私立幼保連携型認定こども園3園

小：公立小学校4校

架け橋期の
カリキュラム開発
会議

【会議委員人数】

14名

【開催数】

計13回

【委員属性】

公立幼稚園長1名、私立幼稚園副園長1名、私立認定こども園長2名、私立認定こども園教頭1名、公立小学校長2名、公立小学校教頭1名、公立小学校主幹教諭1名、教員養成大学教授2名、地域の有識者2名、保護者代表1名

架け橋期の
コーディネー
ター等

【配置人数】

2名

【経歴】

- ・元公立幼稚園長1名
- ・元公立小学校長1名

架け橋期の
カリキュラム

【開発主体】

- ・周南たちばな学園（1公立幼稚園、1私立幼保連携型認定こども園、1公立小学校）
- ・袋井あやぐも学園（1公立幼稚園、1私立保育所、1公立小学校）
- ・南の丘学園（1私立幼稚園、1私立幼保連携型認定こども園、1公立小学校）
- ・浅羽学園（1公立幼稚園、1私立幼保連携型認定こども園、1公立小学校）

静岡県袋井市教育委員会

事業の背景・目的

背景 公立より私立園、幼児部より保育部に在籍する子供の増加、発達障害や外国籍など支援を要する子供の増加など、小学校就学前の状況の変化
目的 本市が推進する幼小中一貫教育の中で、全ての子供たちの学びや生活の基盤を育む幼保小の円滑な接続を通して、「試したり、考えたり、伝え合ったりする」力を育む



取組方法・内容

- 既存の幼小接続カリキュラムを活かして接続の期間を2年間に広げ、研究協力園、協力校を中心に架け橋期のカリキュラムを作成し、学園（幼小中一貫教育）の組織を生かして、全園・全校においてカリキュラムに関わるプロジェクト（事業）に取り組んだ。
- 取組1 カリキュラムの作成、実施、検証・改善・・・開発会議やワーキンググループでの検討、合同会議や担当校長会等で進捗状況の共有
 - 取組2 交流・体験事業の充実・・・機会の増加、内容の充実、対象の拡大
 - 取組3 教職員の連携・・・異校種参観・体験の機会の拡大による資質向上、合同会議の内容の充実
 - 取組4 特別な支援を要する子供への対応・・・十分な情報共有と事前参観による不適応の防止
 - 取組5 プロジェクトの理解促進・・・園・校内研修での啓発、架け橋通信による情報発信



事業実施上の課題と解決方法

- 多数の小学校に卒園児を入学させる園の対応・・・学園（中学校区）版に加えて、袋井市版（共通版）のカリキュラムを作成
- 事業理解や取組に関する園・校の教職員の温度差・・・架け橋コーディネーターや幼児教育アドバイザーによる園・校への積極的な訪問と助言



事業の成果と今後の課題

- 【成果】**（市）・事業理解の浸透と、カリキュラムに基づく育てたい姿を意識した教育・保育の全園・全小学校における実施
 ・子供同士の交流活動の充実と教職員の連携事業の深まり
 ・保護者への周知による事業理解の深まりと満足感の向上
 （園・校）・1年生スタート期の登校渋りや泣いている子供の減少
 ・園から小学校に対する「壁」の意識の軽減と互いの教育・保育の理解の深まり
- 【課題】**（市）・学園主導による架け橋事業の確実な継続
 ・重点とする力の育成の継続と検証
 （園・校）・交流活動の対象児の拡大による保護者の不安の軽減

袋井市 幼小中一貫教育
 幼小の円滑な連携・接続のために、市内全ての園・小学校で「架け橋期のカリキュラム」を実践していきます

幼小中一貫教育をめざすもの
 幼児教育と小学校教育の連続性を意識し、子供たちの学びや生活の基盤を育む。保護者への周知による事業理解の深まりと満足感の向上。

架け橋期のカリキュラムとは
 幼児教育と小学校教育の連続性を意識し、子供たちの学びや生活の基盤を育む。保護者への周知による事業理解の深まりと満足感の向上。

子供たちの力を効果的に引き出す
 子供の学びや生活の基盤を育む。保護者への周知による事業理解の深まりと満足感の向上。

幼児教育	小学校	中学校
言語、算数・数学、理科、社会、体育等	言語、算数・数学、理科、社会、体育等	言語、算数・数学、理科、社会、体育等

令和4年度 袋井市教育委員会

静岡県袋井市教育委員会

カリキュラムの開発で大事にした視点

袋井市の重点と育ててほしい子どもの姿

「袋井市幼保小の架け橋期のレインボープロジェクト」

袋井市では「自立力」と「社会力」を備え「夢を抱き、たくましく次の一步を踏み出す15歳」を幼小中一貫教育をとおして育成しています。

その中で、学びに向かう意欲の向上、学力の向上、早い段階でのつまずきの解消のために、就学前教育・幼小接続プログラムを作成し、「経験を通して発見したり考えたりできる」ことを重点として、幼児期からの円滑な接続に努めてきました。

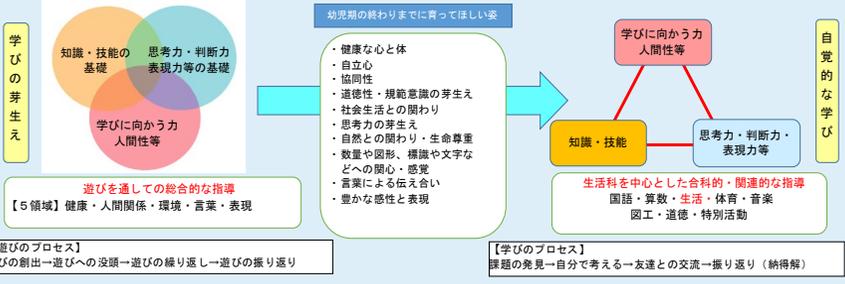
新たに、レインボープロジェクトを進めるにあたり、5歳児から小学校1年生にかけての架け橋期は、これまで以上に一人ひとりの子どもの個性や意欲を尊重し、子どもの思考を促すことや、多様な考えに触れ、豊かな経験を積ませることが大切です。

そこで、架け橋期の重点を「試したり、考えたり、伝え合ったりする」とし、公立・私立、幼保こども園・学校の種別を問わず、子どもに関わる大人が連携・協働しながら思考力・判断力・表現力等を育みます。

架け橋期の重点

試したり、考えたり、伝え合ったりする

月	5歳児（年長）			小学校1年生			
	4月～5月	6月～8月	9月～12月	4月～5月	6月～8月	9月～12月	
自立力	年長になった喜びと意欲をもって生活する	気持ちよく生活するために必要なことに気づき、自分で取り組む	就学に期待をもち、自信をもって生活する	小学校の生活のルールや学習の仕方を理解し、楽しく生活する	生活のリズムを身につけ、学習や活動に取り組む	様々な活動や人々に関心をもち、関わることのよさや楽しさが分かる	大きくなったこと、できるようになったことなど、自分の成長に気づく
社会力	体験を積み重ね、物事にじっくり取り組む	友達の良いまに気づき、関わりを広げる	友達と協力してやり遂げる楽しさを味わう	自分のできることや新しいことに挑戦し、進んで取り組もうとする	学習や生活の目標に向かって進んでいく	友達と互いに励まし合ったりして表現する	成長を確認し、2年生への願いをもって意欲的に生活しようとする



カリキュラム完成までの協議内容・プロセス

令和4年度

架け橋期の重点と育ててほしい子どもの姿の検討【開発会議】

既存の接続カリキュラムを活かした事務局作成のモデルプランを参考に
学園ごとのカリキュラム（経験させたい内容、指導上の配慮事項、連携事項を記載）を作成【ワーキンググループ】

学園カリキュラムの提示・検討【開発会議】

協力園・校から学园内への説明
【学园内会議・幼小合同研修会】



令和5年度

学園カリキュラムの実施【協力校・園中心に全園・全校】

学園版の修正（要領・指針に示された資質・能力の3観点で経験させたい内容を見直し）
【ワーキンググループ】

複数の学園に卒園児を入学させる私立園の要望に沿った袋井市版の作成・検討【開発会議】



令和6年度

架け橋期のカリキュラムの実施【市内全園・全校】

実践事例やアンケート等による検証

静岡県袋井市教育委員会

袋井市版架け橋期のカリキュラム

袋井市幼保小の架け橋期のカリキュラム 架け橋期の重点「試したり、考えたり、伝え合ったりする」

アプローチカリキュラム(5歳児)												
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
ステージ	I			II			III			IV		
知識及び技能の基礎	年長になった喜びと意欲をもって生活する	考えたり、試したりして友達と遊ぶことを楽しむ	好奇心や探究心をもって身近な事象に自分から関わる	気持よく生活するために必要なことに気づき、自分で取り組む								
思考力・判断力・表現力等の基礎	考えたり、試したりして友達と遊ぶことを楽しむ	好奇心や探究心をもって身近な事象に自分から関わる	目的に向かって、実現するための方法を考えたり試したりする									
学びに向かう力・人間性等	友達と体験を積み重ね、物事にじっくり取り組む			「育てほしい子どもの姿」は要領・指針の3つの観点で記載								
健康及び技能の基礎	身の回りを整える必要性が分かり自ら取り組む。(健康・自立)	相手の立場に立て、考えて行動する。(道徳・社会)	「種別的に身体を動かす、様々な活動に取り組む。(健康・自立)	「きまりの必要性が分かり、守ったり考えたりする。(自立・道徳・社会)	「根本本物語に親しみ、言葉のもつ意味やおもしろさなどに気づく。(言葉)	「育みたい(育成を目指す)資質・能力も要領・指針の3つの観点で記載						
育みたい資質・能力	身近な事象に積極的に関わり、自ら実行したり発表を楽しんだりする。(思考・自然・数量)	自分の思いや考えを伝えたり、友達の思いや考えを聞いたりする。(思考・言葉)	「感じたことや考えたことを様々な方法で表現することを楽しむ。(表現・言葉・思考)	「共通の目的に向かって自分の体験や友達の考えを生かして、自分の考えを広げ楽しむ。(思考・言葉)	「自分の思いや考えを相手に分かるように言葉で伝えたり、相手の話を理解して行動したりする。(言葉・表現・思考・自立)	「友達と相談しながら工夫して表現する過程を楽しむ。(表現・言葉・協同・思考)	「新しい学習に興味や関心をもち、進んで考える。(思考・数量)	「分かったことや見つけたこと、感じたことを友達に伝える。(思考・言葉・表現)	「見たことや感じたことを造形等で表現し、伝え合う。(思考・表現)	「自分の伝えたい目的や相手の状況などに応じて伝え方を選ぶ。(思考・言葉・表現)	「「比べる」「並べる」「分ける」などの思考スキルを身に付けて自分の考えを深める。(自立・思考)	
学びに向かう力・人間性等	興味や関心をもって試行錯誤しながら遊びを楽しむ。(自立・思考)	身近な動物に触れ、命を大切にしようとする。(自然・道徳)	生活の中にある図形や数量に触れたり楽しんだりして、興味・関心を高める。(数量・思考)	友達との関わりの中で、役割を受け持てて遊ぶことを楽しむ。(協同)	「様々なことに繰り返し取り組み、諦めずやり遂げる達成感を味わう。(自立)	「いろいろな人と触れ合い関わる中で、地域の人に親しみをもち。(社会)	「身近な自然に触れ、不思議に感じたことを試したり調べたりして関心をもつ。(自然・思考・表現)	「身の回りや状況を考えて行動しようとする。(社会・道徳)	「自分の気持ちに折り合いをつけながら生活しようとする。(道徳)	「場や状況を考え行動しようとする。(社会・道徳)	「友達の話を聞き、自分の思いを表現する喜びを味わう。(表現)	「新しい学年に、様々な方法で学校のことを分かちやすくと工夫しながら伝える。(協同・社会・思考・言葉・表現)

5歳児から1年生の2年間で8つのステージに区切る

袋井市幼保小の架け橋期のカリキュラム 架け橋期の重点「試したり、考えたり、伝え合ったりする」

スタートカリキュラム(1年生)												
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
ステージ	V			VI			VII			VIII		
知識及び技能	小学校の生活のルールや学習の仕方を理解し、楽しく生活する	小学校の学習や活動に取り組む中で、気付いたことを発表する	自分のできることや新たな活動に、進んで取り組もうとする	生活のリズムを身に付け、見直しをもって学習や活動に取り組む								
思考力・判断力・表現力等の基礎	小学校の学習や活動に取り組む中で、気付いたことを発表する	自分のできることや新たな活動に、進んで取り組もうとする	生活のリズムを身に付け、見直しをもって学習や活動に取り組む									
学びに向かう力・人間性等	小学校の生活のルールや学習の仕方を理解し、楽しく生活する	小学校の学習や活動に取り組む中で、気付いたことを発表する	自分のできることや新たな活動に、進んで取り組もうとする	自分の思いを話したり書いたりして表現する								
健康及び技能の基礎	小学校の生活のルールや学習の仕方を理解し、楽しく生活する	小学校の学習や活動に取り組む中で、気付いたことを発表する	自分のできることや新たな活動に、進んで取り組もうとする	「あてに向けて進んで体を動かして運動し、元気に生活する。(健康・自立)								
育みたい資質・能力	「新しい学習に興味や関心をもち、進んで考える。(思考・数量)」	「分かったことや見つけたこと、感じたことを友達に伝える。(思考・言葉・表現)」	「見たことや感じたことを造形等で表現し、伝え合う。(思考・表現)」	「自分の伝えたい目的や相手の状況などに応じて伝え方を選ぶ。(思考・言葉・表現)」	「「比べる」「並べる」「分ける」などの思考スキルを身に付けて自分の考えを深める。(自立・思考)」	「友達と意見を交わし、新しい考えや活動を協力して生み出そうとする。(自立・協同・言葉)」	「地域で出会った様々な出来事や人に興味をもち、進んで関わりようとする。(自立・社会)」	「学習や活動のあてに向けて、友達と協力しながら活動しようとする。(自立・協同)」	「家族や地域の人々、友達などに支えられて成長したことに感謝し、2年生への願いをもって意欲的に生活しようとする。(健康・自立・社会)」	「学習したことを経験したことを生かして生活しようとする。(自立・数量)」		

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連も文末に表記

展開する活動において育てたい資質・能力を確認するとともに、園と小学校のつながりを把握

学園版架け橋期のカリキュラム

学園版には、学園の重点事項との関連や、「指導上の配慮事項」「家庭との連携」「多様性への配慮」等を記載

指導上の配慮事項	指導上の配慮事項	指導上の配慮事項	指導上の配慮事項
<p>「多様性への配慮」</p> <p>多様な学習スタイルや学習環境を整えることにより、全ての児童が学びやすい環境を整える。</p>	<p>「多様性への配慮」</p> <p>多様な学習スタイルや学習環境を整えることにより、全ての児童が学びやすい環境を整える。</p>	<p>「多様性への配慮」</p> <p>多様な学習スタイルや学習環境を整えることにより、全ての児童が学びやすい環境を整える。</p>	<p>「多様性への配慮」</p> <p>多様な学習スタイルや学習環境を整えることにより、全ての児童が学びやすい環境を整える。</p>
<p>「家庭との連携」</p> <p>家庭と連携して学習を進め、子どもの成長を支援する。</p>	<p>「家庭との連携」</p> <p>家庭と連携して学習を進め、子どもの成長を支援する。</p>	<p>「家庭との連携」</p> <p>家庭と連携して学習を進め、子どもの成長を支援する。</p>	<p>「家庭との連携」</p> <p>家庭と連携して学習を進め、子どもの成長を支援する。</p>

静岡県袋井市教育委員会

指導の工夫と子供の表れ



【学びに向かう力・人間性等】

園の裏で捕まえたカナヘビが餌を食べる様子に目を輝かせている。どんな飼育方法がよいか考える活動につながっていく。

【思考力・判断力・表現力等の基礎】

連想カードゲームを通して絵を見てよりよいヒントになるよう工夫したり、ヒントを基に連想の幅を広げたりできるようにしていく。

【知識及び技能の基礎】

2歳児と一緒にかくれんぼをする。年長者としての自覚をもち、2歳児に優しく接することができる自分のよさに気付いていく。

【学びに向かう力・人間性等】

日課の工夫により遊ぶ時間を設定する。好きな遊びを思い切り楽しむ中で、新しい友達との人間関係をつくっていく。

【思考力・判断力・表現力等】

教科書の絵を見ながら園で遊んだことを思い出させた後、どんな絵を描きたいか友達と伝え合い、思いを豊かに絵で表現することにつなげる。

【知識及び技能】

やりたい遊びは、子どもたちが話し合っ決定する。遊びながら新しいルールを自分たちで作り、よりよい遊び方をしていく。

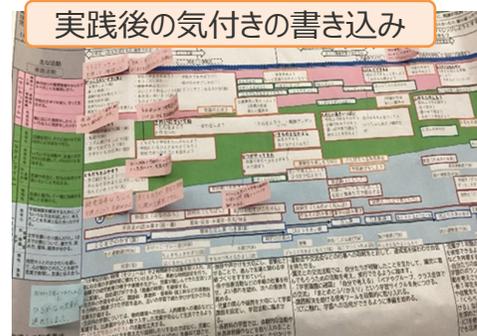
- ・カリキュラムに基づく、育てたい姿を意識した教育・保育の実施。
- ・環境を生かしたり、思いや伝え合いを大切に活動に取り組んだりして、遊びを楽しむ中で学びの芽生えを育んだ。
- ・園での様々な経験や小学生との交流活動を重ねることで、小学校入学への不安が和らぎ、期待感が高まった。

- ・裁量による時間数を活用した遊びの時間の確保や、時間割の弾力的運用、合科的・関連的な指導による活動内容の工夫。園での経験を活かした学習活動の展開。様々な園から入学してくることや支援を要する子へ配慮した仲間づくり活動の重視。
- ・登校渋りや泣いている子が減少し、元気よく活動する姿が増えた。

カリキュラムの見直し・改善

実践事例による検証

実践後の気づきの書き込み



改善点

- ・実施後の気づきや検証に基づき、学園カリキュラムの「育みたい資質・能力」や「経験させたい内容」等を指針・要領の3観点に沿って見直し
- ・すべての子供たちの円滑な接続を図るために、学園カリキュラムの「家庭との連携」「指導上の配慮事項」の欄に、多様性（特別支援・外国籍の子供など）へ配慮する内容を追加記載。
- ・具体的な活動の見直しは、園・校の実態に沿って各々が実施。